



下御霊つうしん

第三十五号
令和六年四月一日
発行 下御霊神社

平素は当社諸祭事にご協力を給わり感謝申し上げます。

昨年(2023年)の5月の祭礼は四年ぶりに通常に斎行することができ露店も復活し多くの人々で賑わいました。今年に入っても節分祭での甘酒接待や氏子餅つき祭など四年ぶりに実施することができお陰様で元通り神事が斎行されています。

ただ今年(2024年)は元日から石川県能登半島地震によって甚大な被害が起こり、また世界を見れば戦禍の余りの惨状に目を覆いたくなります。

地震で亡くなられた方々にはご冥福を、深刻な被害に苦しんでおられる方々には一刻も早い生活再建をお祈り申し上げます。

そして今も新型コロナウイルスの後遺症に悩んでおられる方々のご回復とこの疫病のもたらした様々な禍が終息致しますようお祈りしております。

5月の祭礼ではこのような禍が被り清められ通常に回復しますよう、氏子の皆様、崇敬されている方々とともに祈りながら斎行致したいと存じます。

◆神幸祭・還幸祭の意義について◆

神社によって多少の違いがあることを前提に改めて簡単に説明致します。

この名称は一般名詞であって当社に特化したものではありません。例えば祇園祭も7月17日の晩が神幸祭、7月24日の晩が還幸祭です。当社では江戸時代までは旧暦7月18日神輿迎、8月18日御霊祭と称しておりました。

一年に一度だけ神社に鎮まります御祭神が鳳輦や神輿に遷られて区域をめぐり、その御神徳を發揮して廻られる祭礼です。

神幸祭は「おいで」還幸祭は「おかえり」とも言われ、

人々が集まりやすい所に「御旅所」を設けてお迎えをして一定期間留まられ、丁寧に接待申し上げます。いわば氏子の祭りであり一番賑わうお祭りだと言えます。

かつて当社にも御旅所はありましたが、町中の人の多く住む場所にありますので必要がなくなったのではと思います。

◆神輿の大轆(おおながえ)新調◆

轆(ながえ)とは馬車や牛車にある並行の2本の縦棒の事で神輿においても同じです。

大轆(おおながえ)は重たい神輿をより多くの人が担げるように、巡幸当日に本体の轆に沿って取り付けるもつと長い棒の事です。従来のものが傷み始めて段々と危険になってきましたので、木材を寝かし製材をするのに数年の時間がかかることも考慮して、何年も前から新調する方向で準備してまいりました。皆様の御神酒札によるご奉賛の中から毎年積み立ててこの度新調致しましたのでご報告申し上げます。

全長11m・重さ120kgを2本、横棒と括り付ける網も新調しました。大轆の新調はおそらく百年以上ぶりかと思われれます。ですからこの先百年以上使えるということなのです。



↑昨年までの大轆(おおながえ)

神輿蔵(土蔵)修繕
クラウドファンディング
公益財団法人 京都地域創造基金

◆QRコードで基金のHPからお申し込み下さい。
(当社に対して匿名にすることも可能です。)

今後の予定

(内容・時間等の変更あり)

5月

1日 神幸祭
(水) 遷座

(本殿の御祭神の分御霊を鳳輦・神輿に遷します)

午後2時半~4時
御苑内巡幸

5/1~還幸祭

夕方~閉門
(午後7時半)まで
310年前宮中御下賜
の大宮神輿などが
奉安された拜殿を
ライトアップ
しております。

18日 宵宮
(土)

午後7時~8時
子供みこし・十二灯巡行

19日 還幸祭
(日)

午前10時~午後6時
鳳輦、神輿巡幸

6月

還幸祭写真展
同時開催

23日 茅輪神事
~30日
ちのわ

30日 大祓
(夏越祓)

なごしのはらえ
午後5時~



3月~6月 春の御千度参り



こちら是非
ご覧ください。

公式サイト @shimogoryo863

還幸祭写真コンクール

詳細は後日公式サイトやX(元Twitter)でお知らせしますので是非ご応募ください。
またお祭りの昔(大正・昭和)の写真も募集しております。

裏面に巡行図などを掲載しておりますのでご覧ください